



沢ノ黒遺跡遠景

# 沢ノ黒遺跡の 発掘調査が 終わりました



作業風景

春から始まった沢ノ黒遺跡の調査も秋の訪れとともに、終了をむかえることができた。調査に参加された方々には、杉の根を取り除く作業や固い土を掘り下げる作業など、大変な仕事ばかりだったように思われます。しかし5ヶ月間にも及ぶ調査は私達にさまざまな成果をもたらしてくれました。これらの成果は縄文時代に生きた人々の声や姿を現在に伝えてくれる大切な記憶です。その成果を概観し、調査をふり返ることにしましょう。



捨て場遺物出土状況

遺跡は、縄文時代前期から中期(約5500)〜4500年前(主体)と後期(約4000年前主体)の集落跡です。確認された遺構は、住居5軒・土坑50基・埋設土器8基・配石9基・捨て場2ヶ所です。出土遺物は段ボール500箱にも及び、土器・石器・土製品・石製品などが出土しました。住居は竪穴式であり、地面を掘り下げて構築したものです。一軒のみでしたが、床の中央に石囲炉が作られるものもありました。捨て場は台地の緑辺と斜面に形成され、たくさん土器や石器などが廃棄されていました。また廃棄された遺物の下からは、幼児用の墓と考えられる埋設土器



土偶出土状況

土坑墓や配石(墓の可能性が考えられる)が確認され、捨て場とされる以前は墓域であったことが判明しました。出土した土器の多くは、円筒式土器と呼ばれるバケツ状の深鉢です。石器は、石鏃・尖頭器・石匙・石錘・磨製石斧・凹石・磨石・石皿などが多く出土しました。石鏃・尖頭器は狩猟に、石錘は漁労に、磨製石斧は木の伐採や加工に、凹石・磨石・石皿は調理に用いられたものです。また土偶・土板・石刀・石棒など祭祀に關連する遺物や、耳飾りなどの装飾品も出土しました。土偶や土板などは捨て場から出



易国間小学校見学会

土しており、廃棄と祭祀が結び付いて行われた可能性も考えられます。これらのことは、沢ノ黒遺跡の一端を垣間見たにすぎません。今後さらに研究がすすめられ、この地に生きた縄文の人々の姿が浮かび上がることでしょう。

最後になりましたが、調査に参加して下さった方々、ご協力を賜った関係各位の方々、厚く感謝申し上げます。また、この発掘調査をおして、少しでも多くの方々が考古学に興味を抱いて頂ければ幸いです。

青森県埋蔵文化財調査センター 野村 信生